

# 地方中小都市の民有地における 緑景観の保全に関する実践的考察 —長崎県松浦市の高生垣（ひゃーし）を事例として—

小坂 健人<sup>1</sup>・柴田 久<sup>2</sup>・石橋 知也<sup>3</sup>

<sup>1</sup>学生会員 工学 福岡大学大学院工学研究科（〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈8-19-1,  
E-mail: td144008@cis.fukuoka-u.ac.jp）

<sup>2</sup>正会員 工博 福岡大学工学部社会デザイン工学科（〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈8-19-1,  
E-mail: hisashi@fukuoka-u.ac.jp）

<sup>3</sup>正会員 工修 福岡大学工学部社会デザイン工学科（〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈8-19-1,  
E-mail: tomoya@fukuoka-u.ac.jp）

本研究では、長崎県松浦市の高生垣（ひゃーし）に対する景観保全活動を事例に、民有地の緑が持つ価値の明確化ならびにその価値に対する評価を行ううえでの手法や課題、留意点について考察を行った。その結果、1) 地域景観資源としてのひゃーしの価値評価、2) 調査手法としてのオーラル・ヒストリーの有効性、3) 「よその」との相互的な価値認識の重要性、4) 民有地の緑景観の保全に向けた共助支援の重要性、を地方中小都市の民有地における緑の保全に際する留意点として抽出した。

キーワード: 地方中小都市, 民有地, 緑景観, 生垣, 松浦市

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景と目的

長崎県松浦市は平成24年3月に景観行政団体へと移行し、平成25年3月には市の美しい自然風景や町並みの保全活用に関する方針を示すための「松浦市景観基本計画」を策定した。上記計画では本市を代表する景観資源として高生垣（ひゃーし）をテーマとした景観まちづくりを目指しており、その方針を協議する組織として「ひゃーし景観まちづくり協議会」を設立し、平成25年度より具体的な議論を進めている。

このような例を始め、近年、地域固有の資源を活かしたまちづくりの重要性が広く認識されており、地域の歴史、文化、風土の見直しならびにそれらによって生み出される地域景観資源の保全活用が求められている。その一方、上記地域景観資源には未だ明確な価値が定まっていないものが多く存在している。まちづくりを進めるうえでは、そうした地域の景観資源と住民の暮らしとの関係性やその歴史的変遷を明らかにし、価値評価を行うことが重要である。

本研究で対象とするひゃーしのような民有地の緑の保全を巡る現状として、歴史的風致を有する旧武家屋敷地区の生垣等については、伝統的建造物群保存地区制度や風致地区制度等において行為規制や補助金交付が行われ

るため、積極的に維持管理されている場合が多い。一方で、一般的な民有地の緑については、前述した援助等を受けるに値する歴史的背景や景観資源としての価値が明確でないため、緑を所有する各個人に管理責任が委ねられているという現状にある。

以上より本研究では、長崎県松浦市の高生垣（ひゃーし）に対する景観保全活動を事例に、民有地の緑が持つ価値の明確化ならびにその価値に対する評価を行ううえでの手法や課題、留意点について考察することを目的とする。

### (2) 既往研究及び本研究の位置付け

民有地の緑を対象にした研究には、旧武家屋敷地区3事例の比較から生垣の共同管理手法の課題について論じた鶴和らの研究<sup>1)</sup>や、宅地内の緑がもつ公共的な価値について仮想市場評価法を用いて検証した林らの研究<sup>2)</sup>等がある。さらに加我らは堺市大美野住宅地を対象に接道部の生垣の風景的価値を居住者に対する写真投影法を用いて明らかにしている<sup>3)</sup>。特に生垣に関する研究には、日本の生垣の歴史的変遷について万葉集や絵巻物を用いて明らかにした飛田の研究<sup>4)</sup>や、住宅地における生垣の分布と生垣やフェンス、塀等の囲障に係わる住民意識との関連性について明らかにした柳井らの研究<sup>5)</sup>、生垣の環境調節効果を実測調査により検証した橋本の研究<sup>6)</sup>等

が挙げられる。しかし、本研究は一般的な民有地に存在している地域固有の景観資源として、特徴的な高生垣の保全活動を対象にその価値を明確化し、具体的なまちづくりへの展開に向けた課題を実践的に論じている点でこれまでの研究とは一線を画するものである。

### (3) 研究の進め方

本研究では前述の目的を達成するために、まず研究対象と調査方法（2章）について概説したうえで、ひゃーし所有者等へのヒアリング調査結果（3章）ならびに史料や文献等に関する調査結果（4章）を示す。さらにこれらの調査結果から地方中小都市の民有地における緑景観の保全に際する留意点について考察する。

## 2. 研究の対象と方法

### (1) 研究対象の概要

#### a) 松浦市の概要

長崎県松浦市は、九州の北西部に位置し、人口は24,380人（平成26年8月末日現在）、面積は130.38km<sup>2</sup>である【図-1】。本市は、平成18年1月1日に1市2町（旧松浦市、旧福島町、旧鷹島町）で合併し、伊万里湾を囲むように広がった。海岸部はリアス式海岸になっており、複雑に入り組んだ海岸線を形成している。市域南部には小高い山々が連なり、丘陵地が多く、臨海部や河川沿い等のわずかな平野部に集落や市街地が形成されている。松浦市の景観の特徴として、田園風景や段々畑、棚田【写真-1】が多く見られ、海岸沿いには漁港【写真-2】や漁業集落がある。また松浦党や元寇に縁のある史跡が多く残っており、国指定の鷹島神崎遺跡や県指定の松浦党梶谷城跡等がある。これらの史跡や文化財は福島・鷹島地域に特に多く分布している。さらに有形文化財だけではなく、鷹島の島踊、各地区の浮立、星鹿地区のジャンガラ等、歴史と伝統のある無形文化財が市内各所に現存しており、このような伝統行事を継承するための取り組みも行われている。一方、松浦市では、人口減少や少子高



図-1 長崎県松浦市の位置

齢化、第1次産業就業者人口の減少及び後継者不足、耕作放棄地の増加が進んでおり、松浦らしい農漁村の景観が失われることが懸念されている。

#### b) ひゃーしの現状と課題

松浦市には、市全域にわたりマキやツバキ等で造られた高生垣が数多く分布しており、地元では「ひゃーし」という呼称によって親しまれている。このひゃーしには



写真-1 土谷棚田

写真-2 漁港



写真-3 アーチ状のひゃーし



写真-4 荒れてしまったひゃーし

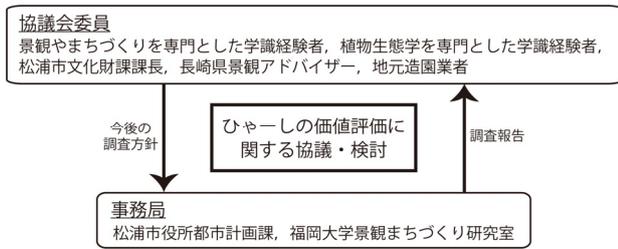


図-2 ひゃーし景観まちづくり協議会の体制

いくつかの特徴的な形態が確認され、アーチ状の門が形づくられるなど、松浦地域の特徴的な景観要素となっている【写真-3】。平成16年には、地域の景観を象徴する特徴的な造形であることから御厨町西木場免にある「御厨の林叢群（みくりやのひゃーしぐん）」が長崎県まちづくり景観資産に登録された。

一方、近年では、剪定されずに放置されているものや撤去されてしまうものが増え、ひゃーしは減少と荒廃の危機に瀕している【写真-4】。その背景としては、所有者の高齢化や後継者不足による維持管理の難しさが挙げられる。このような課題を解決するためにも、ひゃーしが持つ価値を検証し、多くの市民や関係者がその価値を共有し、保全活用へと展開させる取り組みが必要とされている。

### c) 松浦市景観基本計画におけるひゃーしの位置付け

ひゃーしをテーマとした景観まちづくりの推進にあたり「ひゃーし景観まちづくり協議会」が設置された。本協議会は、景観やまちづくりならびに植物生態学を専門とした複数の学識経験者、松浦市役所文化財課課長、長崎県景観アドバイザー、地元造園業者で構成されている。特に、ここでは本協議会での協議・検討を経て具体的な施策内容を定めた景観実施計画の取りまとめが行われている。本市景観基本計画においてひゃーしをテーマとした景観まちづくりは先導的な取り組みとして位置づけられており、この取り組みの効果を具体的に実証しながら、本市景観基本計画で定めたテーマ（棚田、水辺、眺望、歴史等）ごとに協議会の設置、実施計画の策定を行い、市全域へと施策を展開させる。

ひゃーし景観まちづくりの推進体制については、松浦市役所都市計画課、福岡大学景観まちづくり研究室の二者を本協議会の事務局として進められている。事務局の役割として、ヒアリングや文献等による調査の実施、協議会体制の検討、協議会の準備及び資料作成等を行っている【図-2】。

### (2) 調査方法

本研究では、前述した目的に照らし、ヒアリング調査【写真-5】ならびに史料や文献等に関する調査【写真-6】を行った。ヒアリング調査は平成25年4月23日から同



写真-5 ヒアリング調査の様子



写真-6 古写真に関する調査の様子

表-1 ヒアリング対象者

対象者	属性	日付	年齢	住所
A氏	ひゃーし所有者	2013/4/23	70歳代	松浦市鯛川町中免
B氏	ひゃーし所有者	2013/7/30	90歳	松浦市御厨町西木場免
D氏	ひゃーし所有者	2013/10/4	67歳	松浦市鯛川町松山田免
E氏	ひゃーし所有者	2013/10/4	90歳	松浦市御厨町高野免
E氏	ひゃーし所有者	2013/11/22	90歳	松浦市御厨町高野免
B氏	ひゃーし所有者	2013/12/20	90歳	松浦市御厨町西木場免
I氏	ひゃーし所有者	2013/12/20	63歳	松浦市御厨町大崎免
J氏	ひゃーし所有者	2013/12/20	62歳	松浦市御厨町板橋免
D氏	ひゃーし所有者	2013/12/26	67歳	松浦市鯛川町松山田免
C氏	松浦史料博物館学芸員	2013/9/25	(不明)	平戸市鏡川町
F氏	平戸市在住の歴史家	2013/11/6	(不明)	平戸市岩の上町
G氏	平戸市在住の歴史家	2013/11/6	(不明)	平戸市岩の上町
G氏	平戸市在住の歴史家	2013/11/22	(不明)	平戸市岩の上町
H氏	平戸市在住の歴史家	2013/11/22	(不明)	平戸市石川町
K氏	松浦住まいづくり研究会代表	2014/1/8	(不明)	(不明)

年11月22日までに、ひゃーし所有者6名、松浦史料博物館学芸員1名、平戸市在住の歴史家3名、松浦住まいづくり研究会代表1名に対して計15回にわたって実施した【表-1】。主な調査内容はひゃーしの歴史や機能、維持管理に関する問題点や要望等である。史料や文献等に関する調査については、松浦住まいづくり研究会が行った先行調査結果<sup>7), 8), 9)</sup>を整理し、ひゃーしに関する基礎的な情報を把握した。加えて前述した学芸員や歴史家から古写真や絵図等を収集し、それらを用いてひゃーしの歴史や起源、変容過程を分析した。

表-2 ひゃーし所有者へのヒアリング調査結果

機能	防風	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南風や海側からの北風を防ぐ。(B氏, D氏)</li> <li>・農場の周りに植え、作物を風から守る。(E氏)</li> </ul>
	防火	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イヌマキは燃えにくいので、火災時に周囲の家に燃え移りにくい。(B氏)</li> </ul>
	目隠し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外から家の中が見えないようにする。(E氏)</li> </ul>
	風・気流の調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏場は涼しい風が入ってくる。(D氏)</li> </ul>
歴史について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が子供の頃からひゃーしと呼ばれていた。(A氏)</li> <li>・元々防風林だったものを生垣として剪定したものもある。(A氏)</li> <li>・大正12年には松浦市御厨町においてトンネル型のひゃーしの存在が確認されている。(B氏, E氏)</li> <li>・300年前(江戸時代)から存在していたイヌマキのひゃーしが存在すると言われている。(B氏)</li> <li>・明治時代以降にトンネル型に剪定したものもある。(B氏)</li> <li>・寺子屋(後の小学校)だった地に武家の分家として移り、大正5年ごろに生垣としてマキの木を植えた。(E氏)</li> <li>・ひゃーしがある家は武家屋敷が多いだろう。(E氏)</li> </ul>
維持管理の現状や要望	剪定業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は自分で足場を組み剪定しているが、年齢を重ねる毎に体への負担が大きくなり今後の維持管理は難しくなるだろう。(A氏)</li> <li>・以前は自分で剪定を行っていたが、高齢のため現在は業者に依頼している。(B氏)</li> <li>・高いところや天井部分の剪定が大変だが、現在は自分で行っている。(D氏)</li> <li>・昔は自分で行っていたが、高齢のため高いところができなくなったので造園業者に頼んでいる。(E氏)</li> </ul>
	剪定期間・頻度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剪定頻度は年2回、時期は盆前と正月前に行う場合が多い。この時期に行う理由としては春や秋に生えてくる芽を削ぐためである。(A氏)</li> <li>・ひゃーしの規模が大きいと1日では剪定が終わらないため、伸びた箇所のみを行う場合もある。(A氏)</li> <li>・以前は年2回剪定を行っていたが、業者への依頼費用の負担が大きいため現在は年1回しか行っていない。</li> <li>・剪定頻度は年1回、時期は秋を過ぎたあたりから年越しまでの間に行う。全てのひゃーしを剪定するのに3日ほどかかる。(D氏)</li> <li>・年に1回、時期は10月ごろに行っている。全てのひゃーしを剪定するのに7~10日かけて行っている。(E氏)</li> <li>・以前は春と秋に行っていたが、経費がかかるので行っていない。(B氏, E氏)</li> </ul>
	剪定にかかる負担費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で剪定を行う場合の負担費用は、剪定機械の燃料費や道具費くらいなので比較的安く済む。(A氏)</li> <li>・業者に剪定を依頼した場合の負担費用は、1回あたり13万円程度かかる。(B氏)</li> <li>・造園業者への依頼費用として一人あたり15000円を日当で支払っている。(E氏)</li> </ul>
	剪定後の後処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剪定後の落ち葉は雑草対策として畑に撒いている。(A氏)</li> </ul>
	ひゃーしを通じた地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひゃーしを通じた地域でのつながりやコミュニティはない。(A氏)</li> <li>・ひゃーしの手入れを地域で互いに地域で加勢するような文化はない。(D氏)</li> <li>・以前は自分で剪定できない高い場所は地域で剪定できる人を探して頼んでいた。(E氏)</li> <li>・松浦市内に造園業者は6業者あるが、個人的に苗木を育てている人や公共工事は請け負わないが個人で剪定の手伝いを行う人もいる。(B氏)</li> </ul>
	要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在自分で剪定を行っている人にとっては業者に頼んでまで維持することに抵抗があるのかもしれない。そのため、例えば補助金等の金銭的支援があれば今後もきちんと維持管理されるだろう。(B氏)</li> <li>・若手で剪定できる人がいれば互いに剪定の手伝いができるだろう。(B氏)</li> <li>・ボランティアなどで余所の若者が剪定を行うことに抵抗はない。(B氏)</li> <li>・きちんとしてくれるのであれば、県外の若いボランティアが剪定を行っても構わない。(E氏)</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひゃーしの形は様々あるが、個人の好みで決めている。(B氏)</li> <li>・自分で剪定できるならば自分でしたいという気持ちはある。(B氏)</li> <li>・剪定にはある程度の技術や慣れが必要である。(A氏)</li> <li>・業者によって仕立てが異なるため、毎年同じ造園業者に剪定を依頼し形を統一するようにしている。(B氏)</li> <li>・害虫被害は今のところ見られない。(D氏)</li> </ul>
樹種		<ul style="list-style-type: none"> <li>・イヌマキ、ツバキ、サザンカ、サンゴジュ、その他雑木(A氏, B氏)</li> <li>・主にイヌマキが多く、他にはツバキなどがある。(B氏, D氏, E氏)</li> <li>・ツバキは堅く剪定しづらいため、マキとツバキの両方を植えている場合が多い。(B氏)</li> </ul>
ひゃーしに対する認識		<ul style="list-style-type: none"> <li>・剪定した際に近所の方から褒めてもらうのが嬉しい。(A氏)</li> <li>・「ひゃーしが珍しい」と感じたことはない。(B氏)</li> <li>・松浦住まいづくり研究会が活動を行うまではひゃーしの価値には気付かなかった。(B氏)</li> <li>・美的感覚として上部がトンネルのように繋がっている方が良い。(B氏)</li> <li>・積極的に外部に見せたいとは思わないが、きちんとしておかなければみっともない。(B氏)</li> <li>・ひゃーしがいつ頃からあったのかということには興味がなかったため、資料等を見たことがない。(D氏)</li> <li>・子供の頃からあったのでひゃーしの珍しさを感じたことはない。(D氏)</li> <li>・ひゃーしを維持している目的は景観のためである。きちんと手入れをしていないとみっともない。(D氏)</li> <li>・ひゃーしの上部をつなげているのは飾りとしてである。(E氏)</li> <li>・生やしっぱなしにしているのはみっともない。(E氏)</li> <li>・景観を良くしようという意識はない。(E氏)</li> <li>・ひゃーしは生活の中に溶け込んでいるものではあるが、一方で贅沢であるという気もする。(E氏)</li> <li>・ひゃーしに対する興味は全くないということはないが、たまに「なぜこんなものを父は植えたのか」と疑問に思う。(E氏)</li> </ul>
ひゃーしの呼称		<ul style="list-style-type: none"> <li>・約70年前には既に「ひゃーし」と呼ばれていた。(D氏)</li> <li>・「はやし」という言葉には「林」「栄」「囃し」などがあり、「飾り立てる」というような意味がある。(E氏)</li> <li>・「ひゃーし」ではなく、「マキガキ」と呼ぶ。(E氏)</li> <li>・「林」のことを方言で「ひゃーし」と呼ぶ。(E氏)</li> <li>・生垣のことを俗語で「ひゃーし」と呼ぶ人もいる。(E氏)</li> <li>・松浦住まいづくり研究会が生垣のことを「ひゃーし」と広めていった。(E氏)</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひゃーしは寺社仏閣には設けられておらず、住宅のみである。(B氏)</li> <li>・ひゃーしのような生垣は平戸市田平町にも見られる。(B氏)</li> <li>・中学校では郷土についての総合学習などは行っていない。(B氏)</li> </ul>

表-3 松浦史料博物館学芸員ならびに平戸市在住の歴史家へのヒアリング調査結果

<p>平戸の生垣について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生垣は武家屋敷よりも農家の方が多い。武家屋敷は石垣を配している場合が多い。(C氏)</li> <li>・平戸の「亀岡の槇並木」は慶長4年(1599)に日の岳城が築かれたのと同時期に植えられたとされており、最大のものは幹まわりが5.5m以上ある。(C氏)</li> <li>・ひゃーしの幹の太さなど生育状況から樹齢を予測できないだろうか。(C氏)</li> <li>・松浦同様、平戸もイヌマキの生垣が多いが、門をつないでいるものはほとんどない。光が入らないので切ったところもある。(C氏)</li> <li>・主に防風と目隠し。(F氏, G氏, H氏)</li> <li>・生垣は庭と外を区切る役割がある。(F氏)</li> <li>・生垣は庭の景観要素のひとつでもある。(F氏)</li> <li>・武家屋敷の生垣は防風というよりも武士の嗜みとして設けている。(G氏)</li> <li>・農家の場合、庄屋や豪農には生垣があったらう。(G氏, H氏)</li> <li>・明治時代以降は武士が失業し生垣の管理が疎かになった。(G氏, H氏)</li> <li>・生垣の上部をつなげているのは防風のためではないか。開けていると寄り風が吹き込んでくる。(H氏)</li> <li>・イヌマキは潮風にも強い。(H氏)</li> </ul>
<p>平戸藩の歴史について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平戸藩は規律が厳しく、百姓は華美な屋敷を持つことができなかった。(C氏)</li> <li>・江戸時代にひゃーしのような生垣を造るとしたら武家や庄屋などの裕福な階級であっただらう。(C氏)</li> <li>・上記のことから、生垣の上部をつなげるようになったのは明治時代以降ではないか。(C氏)</li> </ul>

### 3. ヒアリング調査結果にみるひゃーし

本章では、2章2節で記したヒアリング調査の結果について詳述する。なお、前述したひゃーし景観まちづくり協議会や事務局において、後述の調査内容に関する協議・検討がなされており、特にひゃーしの歴史を軸に調査を行う方針が示された。ひゃーし所有者へのヒアリング調査結果を表-2、松浦史料博物館学芸員ならびに平戸市在住の歴史家へのヒアリング調査結果を表-3に示す。

#### (1) ひゃーしの起源及び松浦と平戸との関連

現存のひゃーしの起源については、どの所有者からも「自分が生まれた頃には既に存在していた」という意見が聴取され、少なくとも大正時代には既にひゃーしの手入れを行っていることが把握された。また所有者B氏からは「家の裏側のひゃーしは300年前からあったと言われている」との意見が得られ、ひゃーしの起源は江戸時代後期である可能性が示された。

上記の意見を受け、松浦史料博物館学芸員C氏に対して、現松浦市を含む肥前国松浦郡及び壱岐国を治めていた平戸藩の歴史や民俗について尋ねたところ「平戸藩は規律が厳しく、百姓は華美な生垣を持つことができなかった」「江戸時代にひゃーしのような生垣を造るとしたら武家や庄屋等の裕福な階級であっただらう」との回答が得られた。さらに平戸市在住の歴史家G氏からは「平戸藩の武士の嗜みとして生垣を整備していたのではないか」「平戸市にもかつてはひゃーしのような生垣が数多く存在しており、その名残が現在のマキ並木となって残っている」という意見が聴取された。

#### (2) ひゃーしの有する機能

ひゃーしの機能については「防風林だったものを自宅の工事の際に生垣として剪定した」「ひゃーしがあることで海辺からの北風や山からの南風を防ぐ」「作物を強

風被害から守る」等の防風機能を有するという意見が多く挙げられた。この他にも「ひゃーしの主な構成樹種であるマキは、比較的燃えにくい」「外から家の中が見えないようにする」等、防火や目隠しとしての機能があることも窺えた。また平戸市在住の歴史家3名への意見聴取より、こうした機能は平戸市に現存する生垣についても同様に確認できることが把握された。

#### (3) 維持管理の現状と要望

ひゃーしの維持管理の現状については「現在は自分で足場を組み剪定しているが、年齢を重ねるにつれ体への負担が大きくなるため、今後の維持管理は難しくなるだろう」「剪定にはある程度の技術や慣れが必要である」「規模が大きいことや高齢であることにより、剪定回数を減らしたり、造園業者に依頼するといった対策を講じている」等の意見が挙げられ、維持管理の困難さや高齢者への負担の大きさが窺えた。また造園業者への剪定依頼にかかる費用の負担から「行政による補助金等の金銭的支援があれば維持管理ができる」とする所有者も見受けられた。

#### (4) ひゃーしに対する所有者の認識

ひゃーしに対する所有者の認識については「ひゃーしに対して珍しさを感じたことはなく、松浦住まいづくり研究会がひゃーしに関する活動を行うまではその価値に気付かなかった」「子供の頃からあったので、珍しさを感じたことはない」「ひゃーしを設けることで景観を良くしようという意識はない」等の意見が得られた。このことから、所有者にとってひゃーしは特別なものではなく、日常風景の一部として溶け込んでいるものであることが窺えた。

#### (5) 「ひゃーし」という呼称の伝わり方

「ひゃーし」という呼称については、ひゃーし所有者

表-4 ひゃーしの呼称に関するヒアリング調査

日付	2013年12月20日(金)	2013年12月20日(金)	2013年12月20日(金)	2013年12月26日(木)	2014年1月8日(水)
対象者	B氏(90歳)	I氏(63歳)	J氏(62歳)	D氏(67歳)	K氏
住所	御厨町西木場免	御厨町大崎免	御厨町板橋免	調川町松山田免	(不明)
問1	生垣のことを何と呼んでいますか。	「ひゃーし」	生垣	生垣 昔は「ひゃーし」と呼んでいた	「ひゃーし」
問2	その呼称はその地域共通の呼び方ですか。	自分はそう思っている	・生垣と呼んでいるのは自分だけ ・年配の方は「ひゃーし」と呼んでいる	生垣と呼んでいるのは少数だと思う	自分はそう思っている
問3	同様の呼称を用いる地域や人を他に知っていますか。	この付近(西木場地区)では「ひゃーし」と呼んでいる	この付近(大崎地区)では「ひゃーし」と呼んでいる	この付近(板橋地区)では、生垣や「ひゃーし」と呼んでいる	調川町では「ひゃーし」と呼んでいる
問4	その呼称の語源は何ですか。	わからない	わからない	林が訛って「ひゃーし」になったのでは	林が訛って「ひゃーし」になったのでは
問5	親や祖父母は生垣のことを何と呼んでいましたか。	「ひゃーし」と呼んでいた	「ひゃーし」と呼んでいた	「ひゃーし」と呼んでいた	「ひゃーし」と呼んでいた
問6	「ひゃーし」という呼称が指すものは何だと思いますか。	生垣のこと	家を囲っている防風林(雑木林)のこと	家を囲っている防風林(雑木林)のこと	剪定された生垣のこと
問7	「ひゃーし」という呼称を初めて耳にしたのはいつですか。	子供の頃	子供の頃	子供の頃	子供の頃
その他			知り合いの造園業者に確認(電話) ・「ひゃーし」:家を囲っている背が高い雑木群 ・生垣: 1.5mから2.0m程度の同一品種で構成されているもの(混種であれば「ひゃーし」と呼ぶ)		Q. 松浦住まいづくり研究会が、生垣のことを「ひゃーし」と呼ぶようになった経緯について。 A. 御厨町西木場地区において、研究会の生垣に関する調査時に地区住民が何気なく使っていた呼び名が「ひゃーし」であったため、違和感なく「ひゃーし」と呼んでいた。また研究会では、「林」の呼び方が訛って「ひゃーし」になったのではないかと推測していた。その後、「林叢」という漢字があることを知った。

B氏ならびに平戸市在住の歴史家G氏、H氏に対してヒアリング調査を実施した。本調査では「生垣よりも林に対して『ひゃーし』と呼ぶ」「生垣のことは『マキガキ』と呼ぶ」「松浦住まいづくり研究会の活動により、生垣を『ひゃーし』と表現することが広まった」との意見が共通して挙げられた。

また松浦市役所都市計画課により、ひゃーし所有者B氏、I氏、J氏、D氏ならびに松浦住まいづくり研究会代表K氏に対して同様の調査が実施された【表-4】。ひゃーし所有者4名へのヒアリング調査では、問5、7より半世紀以上前には生垣を「ひゃーし」と表現する習慣があったことが確認された。その他の設問からは、どの対象地区においても一部住民を除き「ひゃーし」とは生垣を指すことが窺えた。K氏へのヒアリング調査では「御厨町西木場地区において、研究会の生垣に関する調査時に地区住民が何気なく使っていた呼び名が『ひゃーし』であったため、違和感なく『ひゃーし』と呼んでいた」等、同研究会が生垣を「ひゃーし」と表現し活動を行うようになった経緯が把握された。

#### 4. 史料や文献等に認められるひゃーしの特徴

##### (1) 先行調査結果の整理

ひゃーしの価値を明確化するうえで、ひゃーしに関する基礎的な情報を把握するために松浦住まいづくり研究会が行った調査結果<sup>7), 8), 9)</sup>を整理し、ひゃーしの特徴を抽出した。結果を以下に示す。

##### a) 松浦住まいづくり研究会の概要

松浦住まいづくり研究会は「1.住まいづくり、まちづくりの方向性を形にする」「2.住まいづくり、まちづくりの方向性を探る」を活動の目的とし、平成12年度より建築関連産業に従事する有志10名によって活動を始めた市民活動団体である。主な活動内容としては「松浦型の住まい」のモデルづくりや松浦の景観チェックリストの作成、松浦らしい景観要素の調査、まちなみ景観に対する意識啓発等である。

##### b) 併設物の構成要素及び入口部の形状による分類

同研究会は平成13年度よりひゃーしの事例収集調査を実施している。調査内容は、写真撮影、寸法測量、所有者へのヒアリング(剪定の時期、ひゃーしのメリット・デメリット等の聞き取り)等を行い、平成15年度末現在で60件の事例(樹種や規模、維持管理方法といった、ひゃーしの特徴等)を収集している。

上記調査の成果を基に、60件のひゃーしを「生垣のみ」【写真-7】「生垣と石垣」【写真-8】「生垣とブロック塀」【写真-9】の3つに分類した【表-5】。この結果「生垣のみ」が17件、「生垣と石垣」が39件、「生垣とブロック塀」が4件であり、現存するひゃーしは石垣上に配されているものが全体の半数を占めていることが把握された。近年、全国的に石垣の保全の難しさが問題視されている一方、松浦ではひゃーしと石垣が一体となって残っており、造成当時の構成を維持している可能性が示唆される【図-3】。

また同様の調査成果を基に、60件のひゃーしを「円形トンネル」【写真-10】「長方形トンネル」【写真-11】「トンネルなし」【写真-12】「その他(門部分なし、繋ぎかけ等)」【写真-13】の4つに分類した。この結果

表-5 併設物の構成要素による分類 (A: 生垣のみ, B: 生垣と石垣, C: 生垣とブロック塀)

番号	分類	住所	剪定業者	剪定頻度	剪定時期	家屋建設年	庭建設年	樹種	ひやーしの高さ(m)	ひやーしの周長(m)	ひやーしの幅(m)	併設物の高さ(m)
9	A	松浦市 御厨町 西木場免	業者	年1回	秋	築100年	築100年	イヌマキ・ツバキ・ツツジ	5.0	50.0	1.5	0.4
13	A	松浦市 御厨町 西木場免	業者	年2回	春と秋	昭和22年	昭和22年	イヌマキ	3.5	69.0	1.0	-
14	A	松浦市 御厨町 西木場免	業者	年2回	春と秋	昭和47年	昭和53年	カイヅカイブキ	3.3	105.9	1.0	-
15	A	松浦市 御厨町 高野免	業者	年1回	10月	大正7年	築100年	ラカンマキ・サザンカ	2.5	107.4	0.8	-
18	A	松浦市 御厨町 前田免	自分	年1回	秋	昭和47年	築100年	イヌマキ	4.3	198.0	1.8	-
22	A	松浦市 御厨町 西田免	業者	年1回	正月前			イヌマキ・ツバキ	2.9	64.5	0.9	0.6
27	A	松浦市 志佐町 里免	自分	年2回	5月と12月	平成6~7年	築60年	イヌマキ	2.1~2.2	37.2	1.1	-
28	A	松浦市 志佐町 里免	自分	年2回	5月と8月	築16(旧暦60)年	築70年	イヌマキ・カイヅカイブキ	2.2	50.8	1.1~1.5	-
40	A	松浦市 御厨町 板橋免	業者	年1回		築130年	築130年	ラカンマキ	5.0~6.0	69.8	1.5	1.0
43	A	松浦市 舘川町 中免	自分	年1回	10月頃	昭和21年	昭和25年	イヌマキ	1.6~4.1	113.7	0.6~1.1	-
46	A	松浦市 舘川町 松山田免	自分	年1回				イヌマキ	1.4~3.1	90.0	0.6~1.2	0.2~2.6
47	A	松浦市 御厨町 郭公尾免	業者	年2回		築40年	築40年	イヌマキ	1.4~3.3	109.5	1.5~	-
51	A	松浦市 今福町 東免	自分	定期的		(移築後)40年	築40年	イヌマキ	3.2	25.9	0.9~1.7	-
56	A	松浦市 御厨町 普住免	業者	年1回		築200年	築200年	イヌマキ	6.7	47.2	1.9	-
57	A	松浦市 御厨町 川内免	業者	年1回		昭和25年	築50~60年	イヌマキ・ヒノキ	3.0~4.3	96.5	0.8~2.0	0.7
58	A	松浦市 御厨町 川内免	業者	年1回		築50年	築50年	イヌマキ	3.7	13.6	1.5	-
59	A	松浦市 志佐町 栢木免	業者	年1回		昭和20年改築	築20年	イヌマキ・ツバキ・ヒノキ・スギ	1.2~3.5	105.0	1.0~2.1	0.5
1	B	松浦市 星鹿町 下田免	自分	年1~2回	正月と盆前	昭和52年	昭和47年	イヌマキ・ツバキ	2.5	50.0	1.5	0.5
3	B	松浦市 星鹿町 下田免	自分	4~5年に1回		明治35年	明治35年	イヌマキ	5.5	20.0	1.0	2.8
4	B	松浦市 星鹿町 下田免	業者	年1回	11月頃	築150年	昭和25年	イヌマキ	5.5	20.0	1.0	1.7
5	B	松浦市 御厨町 西木場免	自分	年2回	春と秋	江戸時代	江戸時代	イヌマキ・ツバキ	5.0	40.0	3.0	3.0
6	B	松浦市 御厨町 西木場免	自分	1~2年に1回	正月前	築100年	築100年	イヌマキ	4.7	23.0	0.8~1.3	2.0
7	B	松浦市 御厨町 西木場免	業者	年1回		大正6年	築80~90年	イヌマキ	3.9	35.0	2.0	1.0
8	B	松浦市 御厨町 西木場免	業者	年2回	4月と10月	昭和37年	昭和37年	イヌマキ・カイヅカイブキ	2.4	79.0	1.3	0.9
10	B	松浦市 御厨町 大崎免	自分	年2回	6~7月と11月上旬	昭和7年	昭和7年	イヌマキ	4.7	50.0	1.2	2.1
11	B	松浦市 星鹿町 岳崎免	業者	年2回	盆と正月前	昭和24年	昭和24年	イヌマキ・ラカンマキ	3.4	38.0	1.3	1.3
12	B	松浦市 星鹿町 岳崎免	自分	年1回	11月中旬	昭和22年	昭和22年	イヌマキ・ツバキ・マサキ	5.4	80.0	1.0	-
16	B	松浦市 御厨町 高野免	業者	年1回	10月	築100年	築100年	ツバキ	2.5	66.6	2.0	1.0
17	B	松浦市 御厨町 高野免	業者	年1回	11~12月	築250年	築250年	イヌマキ	4.0	77.0	1.0	1.8
19	B	松浦市 御厨町 前田免	自分	年1回	11月頃	昭和30年	昭和46年	イヌマキ	2.6	40.0	0.7	1.0
20	B	松浦市 御厨町 前田免	業者	年1回	盆前	築120年	築120年	ツバキ	6.0	66.0	2.5	1.0
24	B	松浦市 御厨町 小船免	業者	年2回		築100年	築100年	イヌマキ・ツバキ	3.0~6.0	-	0.6~3.0	-
25	B	松浦市 御厨町 前田免	業者	年1回	正月前	昭和16年	昭和16年	イヌマキ・ツバキ	5.0	69.6	0.8	2.5
26	B	松浦市 志佐町 里免	業者	年1回		昭和45年(母屋)		イヌマキ	1.5~2.0	73.3	0.8~1.0	-
29	B	松浦市 志佐町 高野免	業者	年1回				イヌマキ	3.2	53.0	1.8	1.6
30	B	松浦市 志佐町 高野免	業者	年2回		明治24年	築70年	イヌマキ	2.0~2.7	28.7	1.0~1.2	-
31	B	松浦市 志佐町 池成免	業者	年2回	正月前と盆前	築53(母屋)・80(倉庫)年	江戸時代	イヌマキ	1.5~4.3	32.3	-	0.5~2.5
32	B	松浦市 志佐町 池成免	業者	年2回		昭和23年		イヌマキ	2.4~2.7	37.9	0.8~1.3	1.0~2.0
33	B	松浦市 志佐町 池成免	自分	年1~2回				イヌマキ	2.9	31.5	1.2	-
34	B	松浦市 志佐町 池成免	自分	年2回	6月と11月	築80年	築20~30年	イヌマキ・ツバキ・スギ	1.8~4.2	165.0	1.8	-
35	B	松浦市 志佐町 池成免	自分	年2回	近年やっていない	築150年		イヌマキ	2.9	38.7	1.1	3.6
36	B	松浦市 志佐町 池成免	自分	年2回				イヌマキ	2.6	58.8	1.2	-
37	B	松浦市 志佐町 西山免	自分	年1回	盆前か正月	昭和17年	昭和17年	イヌマキ	2.5~3.0	171.0	0.6~0.7	0.0~1.6
38	B	松浦市 志佐町 西山免	自分	年1回	7月頃	大正6年	大正10年	イヌマキ	1.2~1.9	55.8	0.8~1.0	1.2~1.4
39	B	松浦市 志佐町 西山免	自分	年1回	7月中旬	築200年(現在は50年)	築100年	イヌマキ・ツバキ・ヒサカキ	1.9~3.5	68.6	0.7~1.1	0.6~0.9
41	B	松浦市 御厨町 板橋免	自分	年1回		築80年	築80年	ラカンマキ	1.6~3.0	65.8	0.5~1.0	1.0~1.9
42	B	松浦市 御厨町 板橋免	自分	2年に1回		築200年	明治25年	イヌマキ・ツバキ	2.7~7.0	58.5	1.2~1.9	1.0
44	B	松浦市 舘川町 中免	自分	年1回	7月頃	築100年	築20年	イヌマキ・マサキ	2.6~4.4	52.8	0.6~0.9	0.3~1.05
45	B	松浦市 舘川町 松山田免	自分	年2回	盆と正月前	築35~40年	築35~40年	イヌマキ・ツバキ・ツツジ	1.2~2.0	48.3	0.8~0.9	1.2~1.9
48	B	松浦市 御厨町 郭公尾免	業者	年1回	夏	築60年	築60年	イヌマキ・ツバキ・シキミ	2.4~3.4	73.8	1.6	1.0~2.2
49	B	松浦市 舘川町 松山田免	自分	年1回	10~11月頃	昭和3年	昭和3年	イヌマキ	3.4	40.4	1.8	0.6
50	B	松浦市 舘川町 松山田免	家族	年1回		昭和48年(倉庫 大正10年)	明治時代頃	イヌマキ	3.7	66.5	1.2	1.8
52	B	松浦市 今福町 東免	自分	年2回	盆と正月前	築100年	築40年	イヌマキ	2.1~3.1	55.3	0.7~1.0	-
53	B	松浦市 今福町 木場免	業者	年2回	盆と正月前	築130年	築130年	イヌマキ・スギ	1.6~1.7	47.3	1.1~2.1	1.1
55	B	松浦市 御厨町 川内免	業者	年2回		昭和22年	昭和22年以前	イヌマキ	5.7	36.5	2.4~3.0	0.7
60	B	松浦市 志佐町 栢木免	業者	年1回		築30年	築100年以上	マキ・ツバキ	3.6~5.4	41.3	1.0~1.2	1.6
2	C	松浦市 星鹿町 下田免	自分	年1回	10月頃	昭和49年	昭和49年	イヌマキ	2.0~3.0	104	1.0	0.2~0.7
21	C	松浦市 御厨町 前田免	業者	年1回	10~11月	築100年	築100年	イヌマキ・ツバキ・サンゴジュ	4.0	50.4	2.2	1.2
23	C	松浦市 御厨町 西田免	業者	年1回	10~11月	築100年	築100年	ラカンマキ	5.0	38.5	2.0	-
54	C	松浦市 志佐町 白浜免	業者	年1回		築14年	築20年	イヌマキ	2.0~3.1	102.3	0.7~0.9	-



写真-7 生垣のみ



写真-9 生垣とブロック塀



写真-8 生垣と石垣

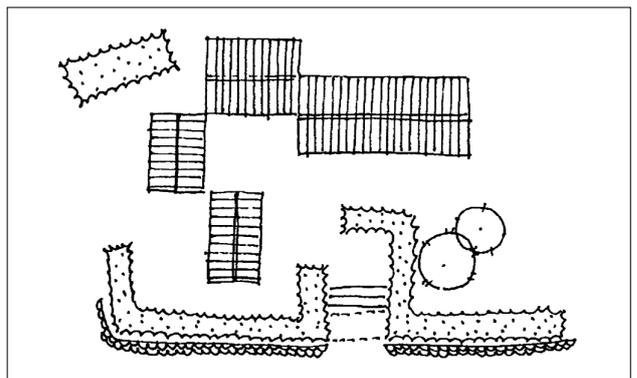


図-3 ひやーしを有する屋敷の見取り図(一例)



写真-10 円形トンネル



写真-12 トンネルなし

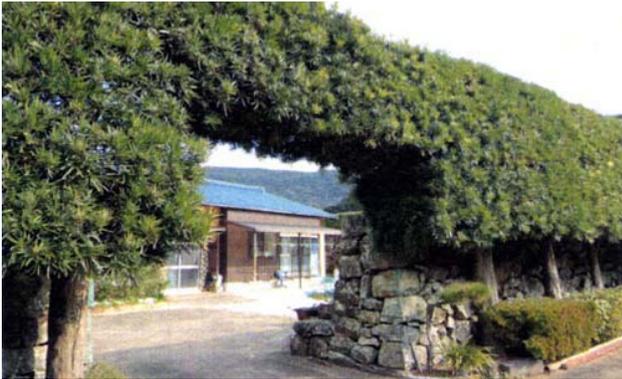


写真-11 長方形トンネル



写真-13 その他の形状

「円形トンネル」が5件、「長方形トンネル」が5件、「トンネルなし」が42件、「その他（門部分なし、繋ぎかけ等）」が7件であることが把握された。

### c) ひゃーしがもたらす微気候への効果

「ひゃーしがあるおかげで夏場もエアコンなしで生活することができる」といった住民の声を基に、平成15年度よりひゃーしがもたらす快適性に関する研究を行っている。上記研究の結果、ひゃーしの存在により日射量抑制効果や冷気の滞留を生むことが確認された。また敷地の周辺環境に限った局地的な気候のことを「微気候」と呼び、ひゃーしによる微気候への働きとして、緑陰による敷地内への直射日光の軽減やアスファルト道路からの放射熱の遮断、外部からの熱の侵入制御が挙げられた。さらにすだれやブラインドは強い日射を受けるとそれ自体の表面温度が上昇し室内に輻射熱を放射するのに対し、ひゃーしは葉の蒸散作用により葉表面の温度上昇が抑えられ、放射熱の放射を防ぐ効果が把握された。こうした働きにより、敷地の内外での地表面の温度差が大きくなり、外から内へと気流が発生するため、夏場の室温上昇が抑えられることが把握された【図-4】。

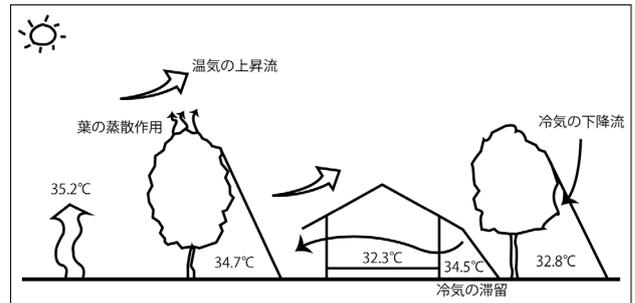


図-4 ひゃーしの微気候への働き<sup>8)</sup> (原図を基に筆者作成)



写真-14 農作業の様子



写真-15 平戸城下の様子



写真-16 農道の様子



写真-17 祭りの様子

### (2) 絵図や古写真を用いたひゃーし起源の分析

写真-14、写真-15、写真-16、写真-17に示す古写真は平戸市在住の歴史家F氏が昭和30年代に平戸市内で撮ったもので、ひゃーしに似た生垣が写っている。また図-5、

図-6に示す絵図<sup>10)</sup>は明治時代に描かれたもので、江戸時代の平戸城下の様子を表しており「マキガキ」と記された生垣が描かれている。以上より、少なくとも江戸時代

にはひゃーしと類似した生垣が設けられていることが確認できた。

### (3) 史料にみる平戸藩の特徴

3章1節で前述したヒアリング調査結果を受け、平戸藩の歴史や民俗については寛政7（1795）年に平戸藩が制定した「郡方御仕置帳」において、農民は儉約に努め自給自足の生活を送ることが取り決められていた<sup>11)</sup>。また平戸藩では50石以上の武士は城下に住み屋敷も与えられたが、地方に居住する武士は「郷土」と称され、家禄を受け奉公しながら農耕に従事していたとされている<sup>12)</sup>。すなわち、城下町だった平戸だけでなく地方の松浦においても武家が存在していたことが看取された。

## 5. 本研究の成果と地方中小都市の民有地における緑景観の保全に際する留意点

### (1) 地域景観資源としてのひゃーしの価値評価

ひゃーしの歴史的価値については、ひゃーし所有者へのヒアリング調査より大正時代にはひゃーしが存在していたことが明らかとなった。また前述したとおり、平戸藩では少なくとも江戸時代後期から高生垣を設けていたことが導出できる。以上より、平戸藩の武家屋敷には少なくとも江戸時代後期から高生垣が設けられ、幕藩体制の解体以降、平戸藩の規律が廃止され地方農家にもひゃーしの文化が広がっていったことが推察される。さらに現存するひゃーしは石垣上に配されているものが全体の半数を占め、造成当時の構成のまま残っている可能性も高く、当時の屋敷や庭の面影を思い起こさせる貴重な歴史的資源と評価される。ひゃーしの機能的価値については、ヒアリング調査や先行調査結果より防風、防火、目隠しといった機能やひゃーしが住環境にもたらす効果を導出することができた。以上、本研究では3章及び4章で前述した一連の調査を経て、ひゃーしが有する歴史的、機能的価値を明確化した。本知見は、地域景観資源としてひゃーしを活かした今後のまちづくりにとって基礎的な資料として有効と考えられる。

### (2) 調査手法としてのオーラル・ヒストリーの有効性

地方中小都市では歴史的な文献等、史料数が少ない場合が多く、地域固有の景観資源に関する情報の蓄積も十分とは言えない傾向が看取される。そのため本研究では松浦市に関する文献史料調査と並行し、ひゃーし所有者に対するヒアリング調査を実施し、口述記録の収集、蓄積、整理を行っている。これを基に平戸藩の歴史に関するヒアリング調査や絵図、古写真等の収集を行い、ひゃー

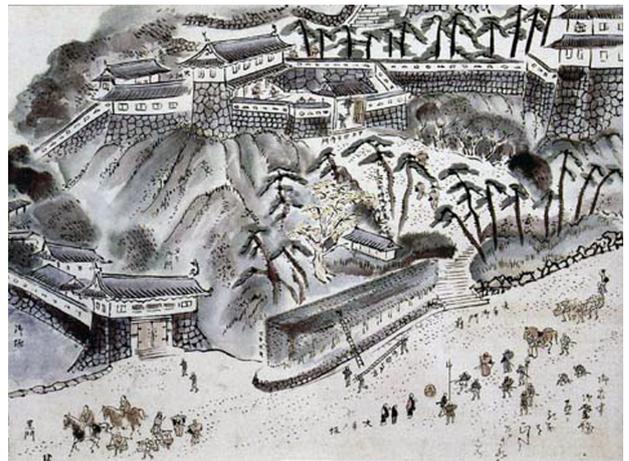


図-5 亀岡と平戸年中行事絵巻 大手坂周辺



図-6 亀岡と平戸年中行事絵巻 例祭御幸行列図

ーしの起源や松浦と平戸との関連性等も把握することができた。地域の歴史的な経緯や関係性を整理、解明する手法として「オーラル・ヒストリー<sup>13)</sup>」があることは既によく知られているが、本研究で行ったヒアリング調査により、特に地方中小都市における地域景観資源の発掘に際する本手法の有効性が確認できた。さらに留意すべきは、そうしたオーラル・ヒストリーから得られた知見とともに、より広範な調査活動や相対比較等の分析によって上記知見を検証し、知見自体の信憑性や独自性、周辺地域との関連性を導き出す補完作業が重要と言えよう。

### (3) 「よそのもの」との相互的な価値認識の重要性

地域固有の景観資源を活かしたまちづくりが注目される一方、普段日常的に存在する資源ゆえに、その価値が地元住民にとって十分に認識されていないケースは往々にして多い。松浦においてもヒアリング調査を行ったひゃーし所有者はひゃーしの価値についてほとんど認識しておらず、調査者との価値認識の差が看取された。すなわち、前述したオーラル・ヒストリーのためのこうした対話の機会が、上記価値認識の差を埋める契機として有効とも捉えられよう。松浦でのヒアリング調査中の対話

においても、ひゃーしに対する認識や関心が促され、ひゃーしの稀少性や独自性について再認識する地元住民の姿勢も垣間見られた。言わばこうした外部の調査者との対話によって「よそのもの」だからこそ分かる価値への理解が進み、地元住民と「よそのもの」との相互的な価値認識を形成させ、地域景観資源を活かした新たなまちづくり展開への意識変容に繋がる可能性が示唆されよう。

#### (4) 民有地の緑景観の保全に向けた共助支援の重要性

松浦住まいづくり研究会は、平成13年度よりひゃーしに関する調査や剪定体験ワークショップ、写真展等の広報活動を行ってきたものの、現在では活動が衰退しており、ひゃーしの保全活用に向けた根本的な問題解決には至っていない。また本研究で実施した所有者へのヒアリング調査結果からは、高齢化や経済的負担による維持管理の困難さが見受けられ、依然として厳しい状況にあることが窺えた。このように、民有地の緑は維持管理が所有者に委ねられているため持続性の担保が困難であり、とりわけ地方中小都市においては往々にして自助・公助では立ち行かなくなっている現状にある。以上のことから、民有地における緑景観の保全活用のためには、地元住民同士の相互支援や前述した地元住民と「よそのもの」との関係性の構築など、共助支援を行うコミュニティ形成が重要と言えよう。加えて当該地域住民が継続して住み続けられるような居住支援を行うことも民有地の緑を守ることに、延いては持続可能なまちづくりへの発展に寄与することが示唆されよう。

**謝辞：**本研究を遂行するにあたり、長崎県松浦市役所都市計画課ならびに松浦住まいづくり研究会、地域住民の方々から多大なご協力を頂きました。ここに記して謝意を表します。

#### 参考文献

- 1) 鶴和誠子・野原卓：旧武家屋敷地区における生垣景観の共同管理手法と管理の持続性に関する研究，日本都市計画学会，都市計画論文集 Vol.48 No.3，pp.369-374，2013
- 2) 林尚貴・川合史朗・浦山益郎：宅地内の庭木や生垣によって形成される緑の景観の経済価値－専有空間のもつ公共性に対する地域共同管理の可能性に関する研究－，日本都市計画学会，都市計画論文集 Vol.40 No.3，pp.841-846，2005
- 3) 加我宏之・田川圭佑・武田重昭・増田昇：堺市大美野住宅地において継承されてきた景観資源の風景的価値に関する研究，日本都市計画学会，都市計画論文集 Vol.48 No.3，pp.375-380，2013
- 4) 飛田範夫：日本の生垣の歴史的変遷について，日本造園学会，ランドスケープ研究 62 (5)，pp.413-416，1999
- 5) 柳井重人・保田圭一・丸太頼一：東京都大田区における生垣分布と住民意識に関する研究，日本造園学会，ランドスケープ研究 58 (5)，pp.273-276，1995

- 6) 橋本剛：伝統的な生垣が温熱環境形成に及ぼす影響 筑波山麓におけるイキグネの事例，日本建築学会，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.1027-1028，2008
- 7) 松浦住まいづくり研究会：「景観形成に係る住まい・まちづくり活動調査報告（その6）」，2004
- 8) 松浦住まいづくり研究会：「松浦の『住景・環』ガイドライン（案）」
- 9) 松浦住まいづくり研究会：「ひゃーし調査結果」，2001
- 10) 平戸市史編纂委員会：「平戸市史 絵図編 絵図にみる平戸」，p.66，p.73，2001
- 11) 三間文五郎編：「平戸藩史考」，芸文堂，p.210，1981
- 12) 松浦市史編纂委員会：「松浦市史」，芸文堂，p.408，1975
- 13) 後藤春彦・佐久間康富・田口太郎：「まちづくりオーラル・ヒストリー」，水曜社，2005